

平成 17 年度
情報収集事業報告書
第 1 号

クォーター・レビュー

非鉄メジャーの
2005 年第 1 四半期動向

平成 17 年 6 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

はじめに

世界的な金属資源価格の高騰を受け、鉱物資源の大輸入国である我が国では原料資源調達が急務となってきており、これら鉱物資源を安定的に確保するためには、その需給の状況・動向等を的確に把握することが不可欠である。

また、我が国の海外鉱山開発事業の円滑な推進を支援するために、マクロ的な需給動向のみならず、世界の鉱山・プロジェクト、探鉱開発の動向を常時注視し、企業活動の推移と傾向を分析調査することは、大変意義のあることと考える。

本報告書は、このような状況を踏まえ、国際金属研究会(銅、鉛・亜鉛、ニッケル)のマンスリーレポート等をベースにしたマクロな生産動向調査に加え、世界の非鉄メジャー企業のクォーターレポート等により経営・生産状況、探鉱開発等の動向をレビューし、「クォーター・レビュー」としてとりまとめたものである。

最後に、本報告書が関係各位の参考となれば幸いです。

平成 17 年 6 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構
金属資源開発調査企画グループ

おことわり:本報告書の内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本報告書の内容に誤りのある可能性もあります。本報告書に基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及び執筆者は何らの責任を負いかねます。

クォーター・レビュー
- 非鉄メジャーの 2005 年第 1 四半期動向 -

目 次

はじめに

. ベースメタルの国際市況と需給動向	1
1. 銅	1
2. 鉛	4
3. 亜鉛	7
4. ニッケル	10
. 世界の主要生産者の動向	12
1. 銅企業の動向	12
2. 亜鉛企業の動向	13
3. ニッケル企業の動向	14
. 今後の鉱山・製錬生産能力予測	15
. 主要企業の 2005 年第 1 四半期動向レビュー	16
1. CODELCO	16
2. Phelps Dodge	17
3. BHP Billiton	18
4. Grupo Mexico	20
5. Rio Tinto	21
6. Freeport McMoRan	22
7. KGHM Polska	23
8. Noranda	24
9. Falconbridge	25
10. Antofagasta	26
11. WMC Resources	27
12. Placer Dome	29
13. Inco	30
14. Newmont	31
15. Teck Cominco	32

. その他企業の動向、主要国の生産統計	34
1. 豪州企業の 2005 年第 1 四半期動向レビュー	34
2. メキシコ・Penoles 社の 2005 年第 1 四半期動向レビュー	35
3. 主要国の生産統計	37

ベースメタルの国際市況と需給動向

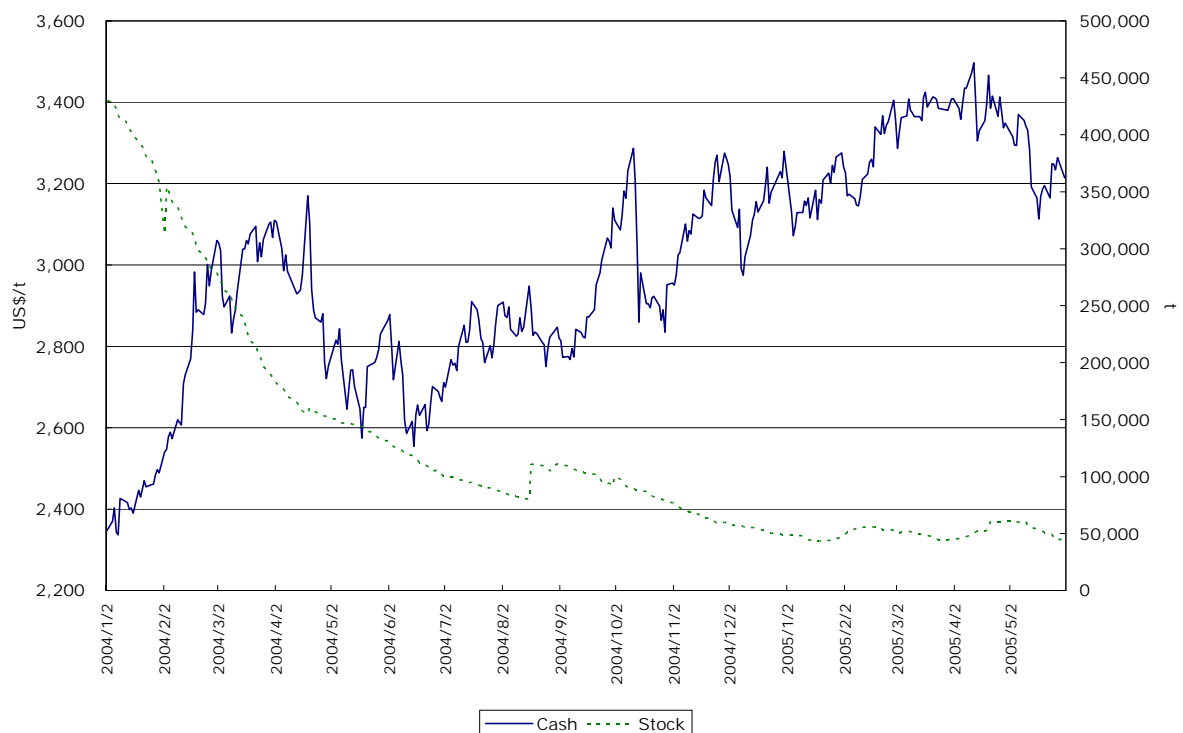
1. 銅

1. 銅の LME 価格は、2005 年に入り、総じて需給バランスのタイト感、ドル安の進行、原油高などを材料に上昇を続け、2 月末には 15 年ぶりの 3,400 ドル超をつけ高水準で推移していたが、5 月には、調整局面に入っている。

2. 2005 年 1～3 月の鉱山生産は前年同期比で 7.5% 増。地金生産は 4.1% 増。一方、消費量は米国、日本等の先進国が低調で 5.5% 減。その結果、1～3 月の需給バランスは、前年の 452 千トン大きく下回る 59 千 t の供給不足。

(1) 国際価格(1 月～5 月)

銅の LME 価格は年始に一時下落し、3,100 ドル台を割り込んだが、その後は、需給バランスのタイト感や米ドル安を背景にコモディティに対する投機人気が衰えを見せない中、上昇を続け、2 月末には 15 年ぶりに 3,400 ドル超えを果たした。その後もドル安の進行、低水準の在庫レベル等を材料に 3,300 ドル台を堅調に推移していたが、5 月になって好調な経済指標を背景とした米ドル連続利上げに伴うドル高等により一時 3,100 US ドル/t 台まで反落し、5 月末時点での LME 価格は 3,214 ドル。



銅地金価格と在庫量の推移

出典: LME

(2) 需給

< 供給 >

国際銅研究会資料(6月号)によると、2005 年 1～3 月の鉱山生産は前年同期比 7.5% 増の 3,542.7

千 t であった。月別の鉱山生産を見ると、04 年後半 1,200 千 t 台を維持し、12 月 1,350.6 千 t と 04 年最高値を更新した後、05 年 1 月 1,207.1 千 t、2 月 1,088.4 千 t と大幅に減少したが、3 月は 1,247.3 千 t と回復した。鉱山の設備稼働率も 04 年は高レベルで推移し、12 月に 97.4%まで上昇したが、05 年に入り 80%後半に下落、3 月は 88.6%であった。2005 年 1-3 月の国別生産量は、3 位ペルーが前年同期比 0.7%減となった以外の主要国は、最大生産国チリが 2.6%増、2 位米国 8.9%増、4 位豪州 15.3%増、5 位インドネシアが Grasberg 鉱山の事故からの回復により 90.6%増と大幅に増加した。

2005 年 1~3 月の地金生産は前年同期比 4.1%増の 3,972.9 千 t であった。月別の地金生産は 04 年末まで増加傾向で 12 月 1,382.0 千 t まで増加したが、05 年 1 月 1,367.4 千 t、2 月 1,242.2 千 t と減少、3 月は 1,363.3 千 t と回復した。04 年 11 月まで精錬所稼働率は上昇傾向にあったが、12 月 81.6%、05 年 1 月 80.3%、2 月は 80.5%、3 月 79.4%と定修等の影響により 80%前後で低迷している。2005 年 1~3 月の国別生産量は、最大生産国のチリ(EW 生産を含む、以下同様)が 3.3%増、2 位中国 21.8%増、5 位ロシア 7.5%増となる一方、3 位日本 0.5%減、4 位米国 0.3%減、6 位ドイツ 4.0%減となったが、全体では増加した。

< 需要 >

国別の 2005 年 1~3 月の消費量は、最大消費国中国が前年同期比 6.4%増となる一方、その他主要国では 2 位米国 11.3%減、3 位日本 12.9%減、4 位ドイツ 18.7%減、5 位韓国 8.5%減となり、世界計では 5.5%減の 4,031.9 千 t であった。世界の消費を月別に見ると、04 年 12 月 1,285.6 千 t、05 年 1 月 1,391.2 千 t、2 月 1,251.6 千 t と増減を繰り返し、3 月は 1,389.1 千 t と前月から増加した。注目の中国の消費動向も、04 年 12 月 263.7 千 t、05 年 1 月 318.3 千 t、2 月 256.5 千 t と増減を繰り返し、3 月は 321.7 千 t と前月から増加した。

< 需給バランス >

以上により、2005 年 1~3 月は 59.0 千 t の供給不足(季節調整後は 25 千 t の供給超過)であった。04 年 12 月に 96 千 t の供給超過となった以降、05 年 1 月 24 千 t、2 月 9 千 t、3 月 26 千 t と供給不足が継続している。

(単位:千t)

銅	2004				2005	対前年 同期比(%)
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	
鉱山生産量	3,297	3,602	3,712	3,928	3,543	7.5
地金生産量	3,817	3,842	4,022	4,106	3,973	4.1
一次	3,312	3,315	3,535	3,623	3,495	5.5
二次	505	527	488	481	478	-5.3
消費量	4,269	4,172	4,017	4,060	4,032	-5.5
需給バランス	-452	-330	5	46	-59	

出典: 国際銅研究会資料(6月号)

(3) 今後の見通し

< 2005 年及び 2006 年の銅需給見通し >

国際銅研究会は、3 月に 2005 年及び 2006 年の銅需給見通しを発表した。これによると、2005 年の世界の鉱山生産は 8.0%増の 15,678 千トンと拡大を持続するとの見通しを示している。内訳は中南米で新規に 315 千トン、米国とインドネシアで生産回復の見通しである。

また、地金生産は 8.5%増の 17,111 千トンと 2004 年の 3.6%増から大幅に拡大すると予想している。要因はアジアの地金生産能力増(中国:18%、インド:29%)。日本も 2.2%の増加と予想している。

一方、地金消費は 5.3%増の 17,370 千トンと若干鈍化するが、依然好調に推移するとの見込みである。中国が 16.9%増の大幅増、米国も 4.3%増と堅調、日本は 1.2%減と見る。従って、2005 年の需給バランスは、生産不足が 259 千トンに大きく縮小すると予測している。

2006 年については、鉱山生産が 1%増の伸びに留まり、地金生産は 5.6%増、消費は 4.6%増となり、需給バランスは、供給不足量が、さらに 93 千トンまで縮小すると予想している。

(単位:千t)

	2003	2004	2005 (予測)	2006 (予測)	03/04 増加率(%)	04/05 増加率(%)	05/06 増加率(%)
鉱山生産量	13,678	14,522	15,678	15,840	6.2	8.0	1.0
地金生産量	15,234	15,776	17,111	18,073	3.6	8.5	5.6
消費量	15,620	16,496	17,370	18,167	5.6	5.3	4.6
需給バランス	-386	-719	-259	-93	-	-	-

出典:国際銅研究会資料(6月号)

< 2005 年の銅価格の見通し >

2005 年の銅価格は、前半は堅調だが、供給増加及び地金消費鈍化により、価格は軟化するとの見方が有力である。年初の Metal Bulletin 誌の 2005 年価格予想は 2,535 ~ 2,900 ドル/t。(2004 年の平均価格:2,866 ドル/t)。但し、足下の需給が予想以上に堅調で価格も上昇していることから上方修正の動きもある。

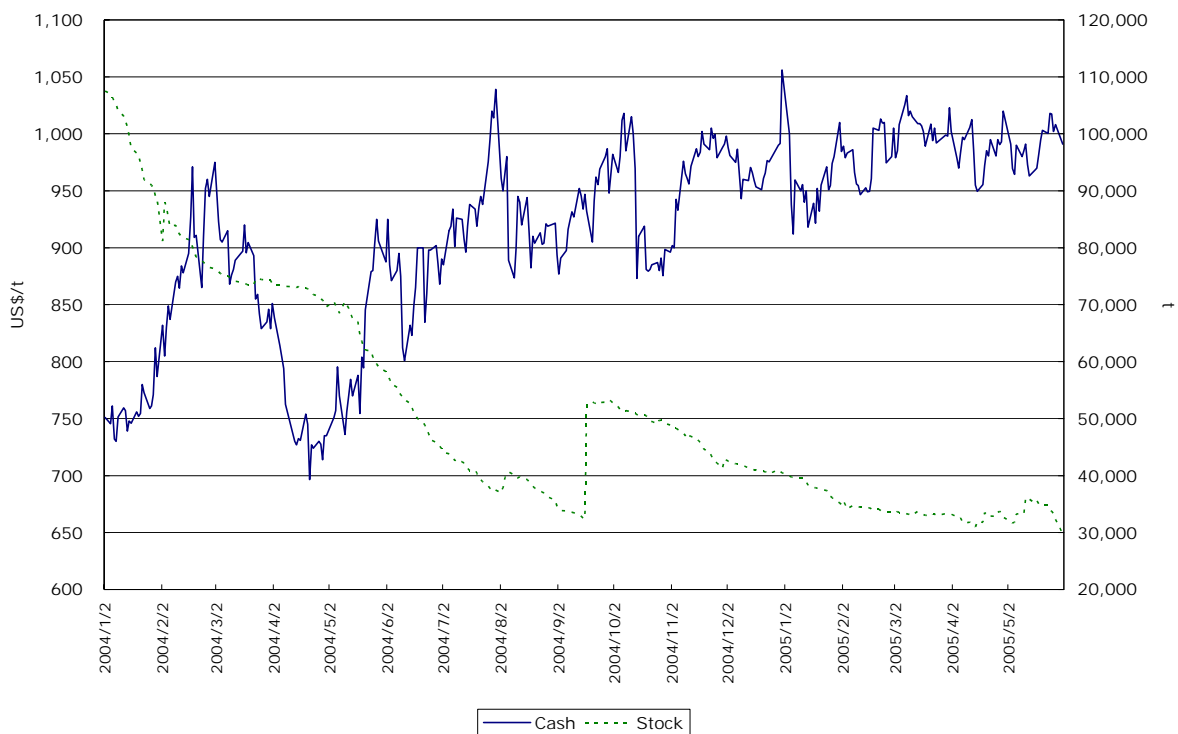
一方、TC/RC については、鉱山生産、地金生産とも 8%台増と特に地金生産が加工賃上昇を受け本格的に回復し、精鉱需給はバランスする方向にあるため、大きな変化はないとの見通しであるが、2006 年以降、鉱山生産にブレーキがかかるため、2007 年以降の買鉱条件は反発する可能性がある。

2. 鉛

1. 鉛の国際価格は、2005 年に入っても、中国等の需要の急拡大による供給不足と LME 在庫が減少していることから、900 ドル～1,000 ドルと高水準で推移。
2. 2005 年 1～3 月の鉱石生産は、前年同期比 10.2% の大幅増。地金生産も同 9.1% の増加。いずれも中国によって強力に牽引されている。消費は中国で増加、韓国で減少し、同 0.8% 増。
3. 2005 年第 1 四半期の世界の需給バランスは、13 千 t の供給不足。前年同期の 153 千 t の供給不足と比べて需給バランスは緩和の方向。LME 在庫量は 3 月末には 33.3 千 t まで減少し、6 カ月連続の減少。

(1) 国際価格(1 月～5 月)

鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策に加え LME 在庫が極端に減少していることから、2003 年秋以降価格上昇が続き、2004 年末は t 当たり 1,056 ドルの年最高値を付け、1990 年以來 14 年ぶりの高値を更新した。2005 年の年始に一時下落したものの、900 ドル以上を保ち、3 月 8 日には 1,033.5 ドルの今年最高値を付けた。その後、1,000 ドル近辺で価格が推移し、5 月末時点での LME 価格は 991 ドル。



鉛地金価格と在庫量の推移

出典: LME

(2) 需給(2005年1~3月)

国際鉛・亜鉛研究会資料(5月号)によると、2005年1~3月の世界の鉛鉱石生産は790千tであり、前年同期比10.2%増となった。最大生産国の中国で18.6%と大幅な増産があったことが主要因である。2位豪州は8.4%増、5位メキシコも17.2%増と高い伸びとなった。3位米国は4.7%減となり、4位ペルーは2.8%の微増。

2005年1~3月の世界の鉛地金生産は1,790千tであり、前年同期比9.1%増となった。最大生産国の中国で18.1%増と顕著な伸び。5位英国も21.5%増となった。2位豪州は2.6%増、3位ドイツが5.6%増。日本は4位で2.4%減となった。

2005年1~3月の鉛消費量は、前年同期とほぼ同じく1,822千tとなった。世界第2位の中国で8.0%増となり、1位の米国に肉薄している。3位ドイツと5位イタリアは前年同期とほぼ同じ。4位韓国は11.2%減となった。

2005年1~3月の世界の鉛需給バランスは、米国備蓄放出分も考慮すると13千tの供給不足で、前年同期の153千tの供給不足と比べて不足量は減少した。

LME鉛在庫量は、2005年3月末で33.3千tとなり、前月比350t減少した。LME鉛在庫量は、2004年10月以降、6カ月連続して減少している。

鉛の需給状況

(単位:千t)

鉛	2004				2005	対前年同期比(%) C/A	対前期比(%) C/B
	第1四半期(A)	第2四半期	第3四半期	第4四半期(B)	第1四半期(C)		
鉱山生産量	717	781	778	781	790	10.2	1.2
地金生産量	1,640	1,724	1,648	1,790	1,790	9.1	0.0
米国備蓄放出	15	14	16	12	20	-	-
消費量	1,808	1,707	1,706	1,805	1,822	0.8	1.0
需給バランス	-153	31	-42	-3	-13	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料(5月号)

(3) 今後の需給見通し

国際鉛亜鉛研究会は、今年5月の発表で、世界全体の鉛鉱石生産は、2005年に10.8%増と顕著な伸びを示し、3,372千tになると予測。これは主に豪州と中国の増産によるもので、豪州はMount Isa鉱山のBlack Star鉱床の開発と西豪州のMagellan鉱山の開発が増産に寄与し、23%増の予測。中国では、主に内モンゴルのBairendaba鉱山の開発があり、中小鉱山でも最近の鉛価格上昇を背景に増産が予測され、12%増の予測。欧州でもアイルランド、スウェーデンが引き続き増産し、ギリシャでもKassandra鉱山が再開される見通しであり、欧州全体で11.5%増の予測。

鉛地金生産は、世界全体で2005年に3.7%増の7,085千tになると予測。これは主に欧州と中国の

増産による。欧州では 4 年連続減少していたが、ベルギー、ブルガリア、イタリア、英国の増産により欧州全体で 8.8%増の予測。中国でも雲南省の Qujing で 100 千 t の生産能力の新製錬所が生産を開始し、2.6%増の予測。

国際鉛亜鉛研究会は、世界全体の鉛地金消費が 2005 年に 2.5%上昇し、7,250 千tに達するものと予測。主要因は中国で 8.1%上昇することによる。日本では、2004 年に急激に減少した後、回復の予測。インド、マレーシア、台湾、タイ、トルコでも上昇を予測。米国鉛備蓄放出量は、2004 年と同レベルの 55 千 t となる見通し。

上記のデータから、2005 年の需給バランスは、西側世界で 105 千 t の供給不足、世界全体では 110 千 t の供給不足となる見込み。

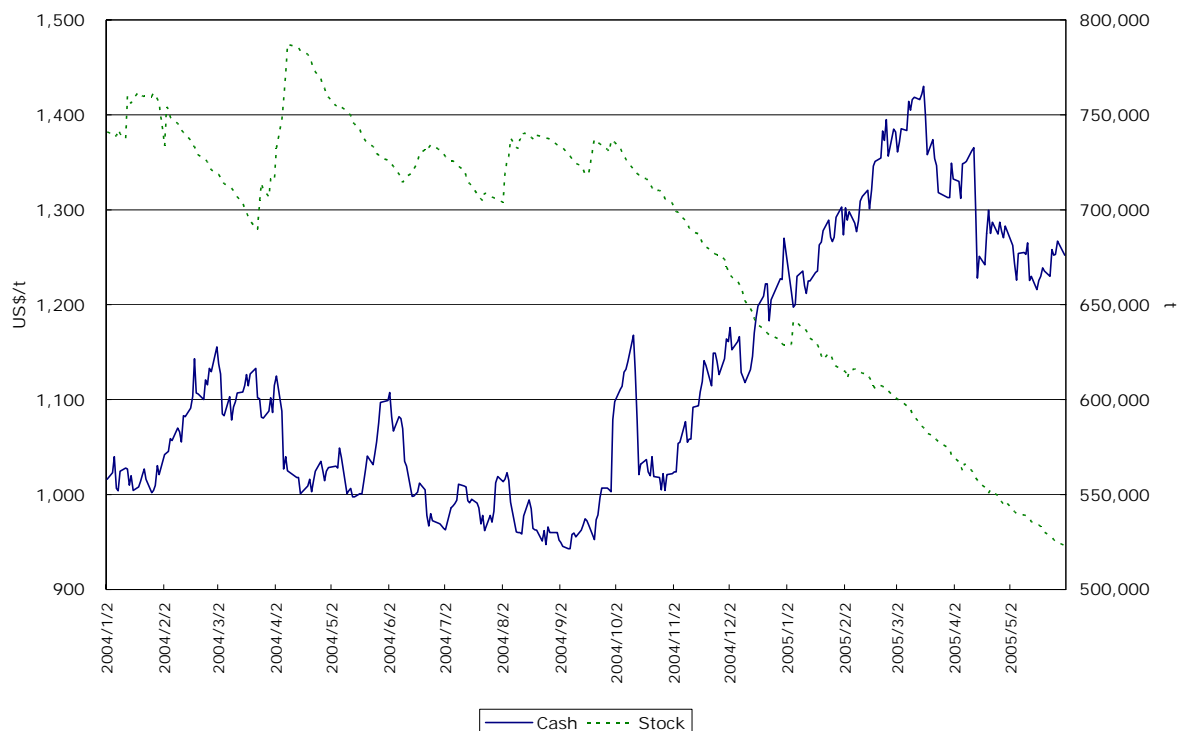
3. 亜鉛

1. 亜鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大による供給不足と LME 在庫が減少していることから 2005 年に入っても続伸し、3 月 16 日には 1,430 ドルまで上昇し 7 年ぶりの高値を更新。その後、1,200 ドル台に反落。
2. 2005 年 1～3 月の鉱石生産は前年同期比 5.1% 増。中国で 16.5% の大幅増が主要因。地金生産は同 4.3% 増。カナダ、韓国、日本で 5-6% 台の増産。消費は同 3.4% 増。中国・韓国で顕著な伸び。
3. 2005 年第 1 四半期の世界の需給バランスは 60.5 千 t の供給不足で、依然、需給はタイトな状態が継続。LME 在庫量は、3 月末に 570 千 t まで減少し、6 カ月連続の減少。

(1) 国際価格(1 月～5 月)

亜鉛の国際価格は、2004 年 11 月以降、ドル安の進行に加え、LME 在庫が減少していること等を材料に亜鉛価格は上昇を続け、年末には 2004 年最高値となる 1,270 ドル/t を付けた。

2005 年に入り、1 月に中国で電力不足による亜鉛製錬所減産、2 月 10 日には 2006 年 3 月で豊羽鉱山操業休止が伝えられたこともあり、LME 価格の上昇が続いた。3 月には、亜鉛生産量で世界第 2 位である豪州の Century 鉱山が、SAG(半自生粉砕)ミルの電気系統の障害により 11.5 日間操業を中断した影響もあり、3 月 16 日には LME 価格は t 当たり 1,430 ドルまで上昇し、1997 年 9 月以来 7 年ぶりの高値を更新した。その後ドル高を背景として投機ファンド資金の一部流出があり、5 月 16 日には 1,216 ドルまで価格が低下した。5 月末価格は、1,252 ドルとなった。



亜鉛地金価格と在庫量の推移

出典：LME

(2) 需給(2005年1~3月)

国際鉛・亜鉛研究会資料(5月号)によると、2005年1~3月の世界の亜鉛鉱石生産は、2,446千tであり、対前年同期比5.1%増となった。最大生産国の中国で16.5%と大幅な増産があったことが主要因である。2位豪州と3位ペルーは2%台の伸び。カナダはBell Allardが2004年12月に閉山、Bouchard-Hebertが今年2月に閉山したことにより15.3%の大幅な減産となり、米国に抜かれ第5位に転落した。

2005年1~3月の世界の亜鉛地金生産は、2,558千tで、対前年同期比4.3%増となった。最大生産国の中国は、1月に電力不足のため株洲製錬所で減産があり、前年同月比4.4%減となったが、その後生産が回復し第1四半期の地金生産は対前年同期比2.5%増となった。第2位のカナダ、第3位の韓国、第4位の日本は、需要増加、地金価格上昇により5-6%台の増産となった。

2005年1~3月の亜鉛消費量は、2,621千tで前年同期比3.4%の増加となった。最大消費量の中国で8.6%の大幅増となった。第2位の米国では11.1%減、第3位の日本でも0.9%消費量が減少となった。韓国では、自動車向け亜鉛めっき鋼板の生産が好調で、亜鉛消費量が32%増となり、世界第4位消費国へと躍進した。

2005年第1四半期の世界の亜鉛需給バランスは、1月から3月までいずれも供給不足となった。3カ月の供給不足量の合計は60.5千tとなった。対前年同期比では、供給不足量は20%減少した。

亜鉛のLME在庫量は、2005年3月末で570.6千tとなり、前月末と比べて31千t減少し、600千tを割り込んだ。LME亜鉛月末在庫量は、2004年10月以降、6カ月連続して減少している。

亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2004				2005	対前年同期比(%)	対前期比(%)
	第1四半期(A)	第2四半期	第3四半期	第4四半期(B)	第1四半期(C)	C/A	C/B
鉱山生産量	2,327	2,389	2,462	2,456	2,446	5.1	-0.4
地金生産量	2,453	2,563	2,554	2,600	2,558	4.3	-1.6
米国備蓄放出	7	10	9	6	3	-	-
消費量	2,535	2,702	2,616	2,615	2,621	3.4	0.3
需給バランス	-75	-129	-53	-8	-61	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料(5月号)

(3) 今後の需給見通し

国際鉛亜鉛研究会は、今年5月の発表で、世界全体の鉱石生産は、2005年に5.3%増の10,147千tと予測。新規プロジェクトが数件生産開始となる予定。中国では雲南省の蘭坪鉱山が生産開始となり、インドではRajasthanのRampura Agucha鉱山が拡張となる。米国ではBalmat鉱山が再開される見込み。欧州では、アイルランド、ギリシャ、ロシア、スウェーデンで増産となり、欧州全体で8.2%増の見込み。豪州、メキシコ、モロッコ、ペルーでも増産が予定されている。カナダはBell Allardが2004年12月に閉山、Bouchard-Hebertが今年2月に閉山したことにより2005年は14%減の予測。

欧州の亜鉛地金生産は、主として最近Umicore社がフランスでの減産を発表したことから減産が

予想されているが、世界全体の亜鉛地金生産は 3.1%増の 10,486 千tと予測。インドでは、Hindustan Zinc 製錬所の増産により 28%増と顕著な伸び。中国、日本、カザフスタン、韓国でも増産の見通し。南米では、ペルーの La Oroya 製錬所が環境問題で減産。ブラジル、メキシコでは増産の見通し。

他の金属や原料と同様に、2005 年の亜鉛市場に最も影響を与えるのは、中国の消費の更なる拡大である。亜鉛の場合、2005 年の中国の消費の伸びは 8.7%と予測され、住宅、自動車、家電部門での亜鉛めっき鋼消費の急速な拡大が続くことによる。また、道路、鉄道、発電所、送電施設建設等のインフラ部門での消費も拡大している。2005 年の世界全体の亜鉛地金消費は 2.1%増の 10,692 千tと予測され、2004 年と比較して伸び率は縮小する見込み。

2005 年の西側世界の亜鉛需給バランスは、200 千 t を若干下回る程度の供給不足となる見込み。米国備蓄物資放出を考慮すると、世界全体の供給不足量は 176 千 t と予想される。

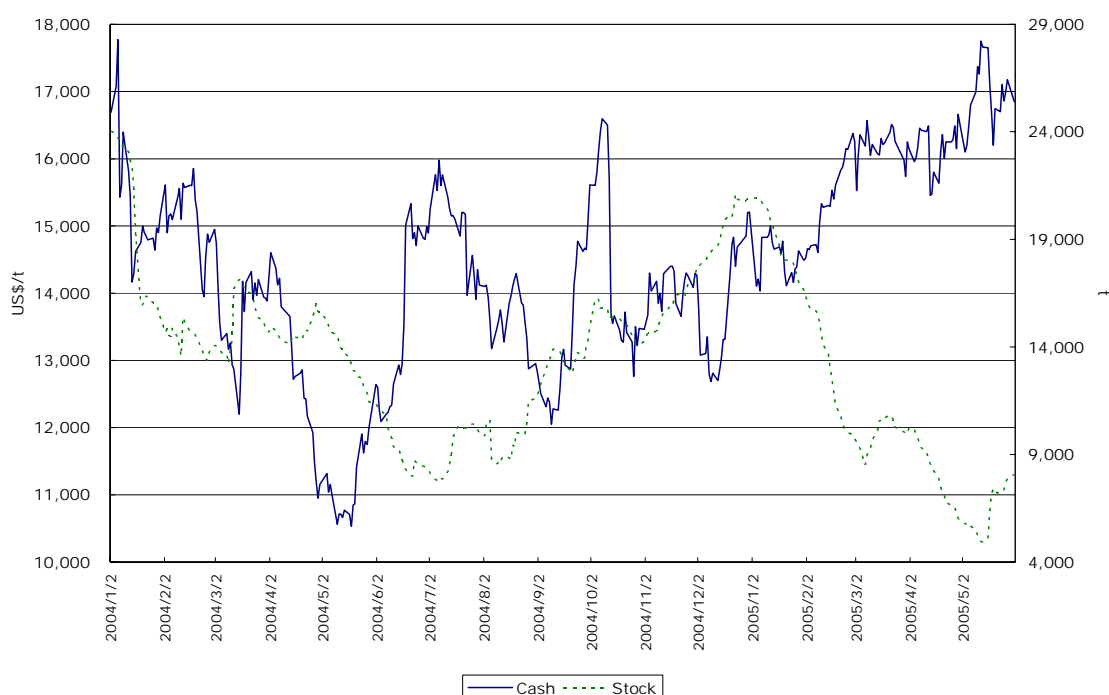
世界的な調査機関である CRU や Brook Hunt では、2005 年の亜鉛地金の供給不足をそれぞれ、390 千t、495 千tと昨年よりも拡大すると見ており、供給不足は2006年まで続くと予測している。また、亜鉛生産大手ノランダ社は鉱石の供給不足が 2007 年まで持続するとの見方を示しており、研究会の予想に懐疑的な見方もある。日本の亜鉛生産者も現状では鉱石不足が深刻化しており、供給不足の解消に目途がたっていないとの懸念がある。

4. ニッケル

1. ニッケルの国際価格は年初 14,105 ドルへと下落で始まったが、昨年末からの上昇傾向は継続し、4月上旬まで 16,000 ドル台を堅調推移。さらに、5月上旬には在庫減少などから 17,370 ドルへと高騰。
2. 2005 年 1~3 月の鉱石生産は、対前年同期比 1.3%増、地金生産は 1.4%増、消費は 3.2%増。その結果、需給バランスは、ほぼ均衡。LME 在庫量は、2005 年に入り大幅に減少し、4月末時点で 6,024t と低水準。

(1) 国際価格

ニッケル国際価格は、1月4日に 14,105 ドルへと下落。しかし、その後は LME 在庫減少などからの需給タイト感を材料に反転し、14,000 ドル台半ばで推移し、2月中旬からは他の非鉄金属同様、堅調な需要に下支えされ 15,000 ドル台を維持。その後上昇傾向が続き、2月24日には 16,150 ドルを付け、昨年 10 月以来の 16,000 ドル台となった。3月に入っても 16,000 ドル台で堅調推移し、一時、ドル高に伴い 16,000 ドルを割り込んだものの、月末には 16,000 ドル台に回復。4月上旬も 16,000 ドルから 16,500 ドルの高値で推移したが、他の非鉄金属同様、ドル高を背景とした投機筋の利食い売りにより、4月13日に 15,455 ドルへと急落。しかし、その後はドルの反落に伴い 16,000 ドル台へと回復し、月末には 16,660 ドルへと上昇。5月に入り、在庫減少などからさらに高騰し、5月10日には 17,370 ドルとなり、2004 年 1 月以来の 17,000 ドル台となった。その後、5月18日には 16,650 ドルへと反落したものの、5月末時点で 16,850 ドルと依然として高値を付けている。



出典：LME

ニッケル価格と在庫量の推移

(2) 需給 (2005 年 1~3 月)

国際ニッケル研究会資料(5月号)によると、2005 年 1~3 月のニッケル鉱石生産は 321.8 千tで、対

前年比 1.3%(4.2 千 t)の増となった。最大生産国のロシア、第 2 位のカナダはほぼ変わらず、第 3 位の豪州は 4.5%(1.9 千 t)の増、第 4 位のインドネシアは 9.2%(3.3 千 t)の増となり、第 5 位ニューカレドニアの 14.7%(3.9 千 t)の減を補った。2005 年 1～3 月のニッケル地金生産は 319.0 千 t で、前年同期比 1.4%(4.4 千 t)の増となった。最大生産国ロシアはほぼ変わらず、第 2 位の日本は 6.7%(2.9 千 t)の減、第 3 位のカナダは 4.3%(1.6 千 t)の減となり、第 4 位の豪州 20.1%(5.5 千 t)増がこれを補った。2005 年 1～3 月のニッケル地金消費は 318.7 千 t で、前年同期比 3.2%(9.9 千 t)の増となった。消費量第 1 位の日本、第 3 位の米国はほぼ変わらず、第 2 位中国が 25.4%(8.6 千 t)の増、第 4 位の韓国が 4.7%(1.2 千 t)の増であった。

2005 年 1 月～3 月の需給バランスは、微量(300t)の供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫量は、2005 年に入り減少傾向に転じ、2005 年年初には 20,000t 程度だったが、2 月末時点で 9,924t と大幅に減少した。3 月に入り多少の回復はしたものの、その後さらに減少し、4 月末時点で 6,024t と 1991 年以来の低水準となっている。

表1 ニッケルの需給状況

単位:千トン(Ni 純分)

ニッケル	2004				2005	前年同期比 (%)
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	
鉱山生産量	317.6	320.8	322.1	323.5	321.8	1.3
一次地金生産量	314.6	309.9	303.1	322.1	319.0	1.4
消費量	308.8	314.1	302.4	317.0	318.7	3.2
需給バランス	5.8	-4.2	1	5.1	0.3	

出典:国際ニッケル研究会資料(5月号)

(3) 今後の見通し

国際ニッケル研究会によると、2005 年の世界の一次ニッケル地金生産量は、前年比 4.4%増の 1,310 千 t と予測した。中国、ノルウェー、ニューカレドニアで増産、カナダでは減産が予想されている。2005 年のニッケル消費量は、前年比 4.2%増の 1,304 千 t と予測した。中国では 2004 年と同様に 20%程度の消費量の増加が見込まれており、世界第 1 位の消費国である日本とほぼ肩を並べる水準まで増加しつつある。その他、フィンランド、台湾でも消費増が予想されている。従って、世界のニッケル需給はほぼバランスすると予測している。

一方、2005 年の今後のニッケル供給については、主要な生産者のメンテナンスによる減産や労使交渉による影響の見通しもあることから、需給がほぼバランスするという国際ニッケル研究会の楽観的な予測に懐疑的な見方もある。

ニッケル価格については、引続き需給はタイトであり、在庫は極度の低水準であることなどから、今後さらに価格が上昇する可能性もある。

・世界の主要生産者の動向

1. 銅企業の動向

2005年第1四半期の主要生産者14社の銅鉱山生産は、合計204.5万t、約14.5万tの増産(前年同期比7.6%増)となった。2005年第1四半期の生産実績を公表した主要生産者14社のうち、9社が増産、5社が減産となった。2003年10月に地すべり事故を起こしたGrasberg鉱山の生産回復が大きく影響した形となり全体でも増産となったが、2004年第4四半期の233万tと比べると生産レベルは減少している。

最大の増産はFreeport McMoran社(米)で、同社のGrasberg鉱山が2003年10月に発生した地すべり事故から通常操業へ回復したことによる増産である。Freeport McMoran社の2005年第1四半期の生産量は、前年同期と比べて103,600t増(約3倍増)と大幅に回復した。

一方、最大の減産は、Grupo Mexico社(メキシコ)で18,336tの減産であった。これは、傘下のペルーの鉱山が低品位であったこと、メキシコでは、過去10年間における記録的な降雨の影響で、Cananea鉱山、La Caridad鉱山等のメキシコの鉱山生産が減少したことによるものである。しかしながら銅価格が高かったことから、Grupo Mexico社の2005年第1四半期の業績は、売上が前年同期比43%増、操業利益が59%増、税引前利益が52%増加と好調を維持している。

世界最大の銅生産者であるCodelco社(チリ)は、6,000tの減産(前年同期比1.4%減)であった。これは主力のCodelco Norte、El Teniente等の減産によるものである。なお、Codelco社の2005年第1四半期の業績は、出荷量が前年同期における備蓄売却の影響から12%減少したものの、銅価格が大幅に上昇したことにより、売上は2,255百万US\$(前年同期比21%増)、税引前利益は1,084百万US\$(前年同期比71%増)を記録した。同社はチリ北部に2ヶ所、ブラジルに1ヶ所新鉱床を発見しており、中長期的な規模拡大の余地を十分有している。

世界第2位の銅生産者であるPhelps Dodge社(米)は、11,600tの増産(前年同期比4.5%増)であった。Phelps Dodge社の2005年第1四半期の業績は引き続き好調で、純利益が386.7百万US\$(前年同期比2.1倍)と前四半期に続いて過去最高益記録を更新した。

この他主要な生産者として、BHP-Billiton社(英豪)は、9,000tの増産(前年同期比3.7%増)であった。これはAntamina(ペルー)の通常生産への復帰、Cerro Colorado(チリ)の高品位によるもので、Tintaya(ペルー)の低品位による減産を相殺した。

またRio Tinto社も、8,200tの増産であった。同社においても、Grasberg鉱山の生産回復(前年同期比4.6倍)の影響が大きかった。この他チリのEscondidaが微増(前年同期比1.3%増)、Kennecott Utah CopperのBingham Canyon鉱山は低品位により微減(前年同期比0.6%減)、南アPalabora等が増産、ポルトガルNeves Corvo鉱山売却等の影響があったが、Rio Tinto社全体としては4.6%の増産となった。

2005年第1四半期の主要銅鉱山生産者の生産実績(精鉱中銅金属量及びSX/EWカソード生産量)は下表のとおりである。

主要銅鉱山生産者の生産実績

(単位:t)

会社名(本社所在国)	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年 同月比(%)
Codelco(チリ)	420,000	433,000	476,000	541,000	414,000	-1.4
Phelps Dodge(米)	260,300	265,400	282,900	290,200	271,900	4.5
BHP-Billiton(英豪)	240,600	272,600	248,800	265,800	249,600	3.7
Grupo Mexico(メキシコ)	220,871	213,400	217,312	221,894	202,535	-8.3
Rio Tinto(英)	180,000	193,400	174,700	204,900	188,200	4.6
Freeport McMoran(米)	48,600	94,900	116,300	192,200	152,200	213.2
KGHM Polska(ポーランド)	132,000	136,443	142,163	139,460	130,776	-0.9
Noranda(加)	99,663	122,020	135,536	133,165	118,636	19.0
Falconbridge(加)	65,978	84,719	97,784	92,147	83,012	25.8
Antofagasta(英)	67,404	77,945	80,430	81,515	73,209	8.6
WMC Resources(豪)	47,974	54,785	61,584	60,388	56,915	18.6
Placer Dome(加)	49,441	49,441	45,813	42,184	41,277	-16.5
Inco(加)	29,740	30,380	35,070	29,694	32,648	9.8
Newmont(米)	37,605	57,470	55,308	47,290	30,484	-18.9
14社計	1,900,176	2,085,903	2,169,700	2,341,837	2,045,392	7.6

注: 各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。但し、WMC社はカソード生産量。

Noranda社はFalconbridge社と2005年5月5日合併を完了、BHP-Billiton社はWMC Resources社を買収提案中であり、銅生産者の更なる寡占化が進行している。

2. 亜鉛企業の動向

2005年第1四半期が公表されている主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(9社分)及び中国の生産量の合計は1,210千tとなり、前年同期比2.9%増となった。中国が16.5%増で、大幅な伸びとなっている。

最大生産者のTeck Cominco社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比9.9%増の160,855tとなった。主力のRed Dog鉱山(米アラスカ州)は、同4.6%増となり、Pend Oreille鉱山が2004年第3四半期から本格生産開始となり、今期生産量は10千tであった。反対にAntamina鉱山(ペルー)は、亜鉛鉱石処理量の減少により同10%減となった。

第2位のZinifex社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比12.8%減となった。主力のCentury鉱山がSAGミルモータの故障が発生し、3月に11.5日間生産停止となったことにより、同14.5%減となった。Rosebery鉱山では、同2.8%減であった。

第3位のNoranda社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比19.2%減となった。Bell Allard鉱山が2004年10月に閉山した影響が大きい。主力のBrunswick鉱山は、同8.9%減であった。

また、Rio Tinto社(英)は、2004年3月、Zinkgruvan鉱山(スウェーデン)をSouth Atlantic Ventures

社(加)に売却し、権益保有鉱山が Greens Creek 鉱山(米アラスカ州、70%)のみとなったため、亜鉛鉱山生産量は前年同期比 66.6%減となった。

主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(単位:t)

会社名(本社所在国)	2004年 第1四半期 (A)	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期 (B)	2005年 第1四半期 (C)	増加率(%) C/A	増加率(%) C/B	出典
Teck Cominco(加)	146,385	152,995	170,925	148,667	160,855	9.9	8.2	1
Zinifex(豪)	154,089	151,381	153,999	149,748	134,422	-12.8	-10.2	1
Noranda(加)	145,059	125,907	141,128	116,156	117,253	-19.2	0.9	1
Boliden(スウェーデン)	81,521	101,351	79,657	98,422	87,521	7.4	-11.1	1
Industrias Penoles(メキシコ)	56,400	51,700	57,600	54,100	58,700	4.1	8.5	2
Grupo Mexico(メキシコ)	33,400	33,500	32,400	34,500	34,700	3.9	0.6	2
BHP Billiton(英・豪)	35,194	29,038	23,851	20,918	32,388	-8.0	54.8	1
CBH Resources(豪)	16,867	21,092	17,655	18,129	18,009	6.8	-0.7	1
Rio Tinto(英)	29,900	21,500	10,700	11,700	10,000	-66.6	-14.5	1
中国	478,000	580,700	604,100	627,000	557,000	16.5	-11.2	3
9社+中国の計	1,176,815	1,269,164	1,292,015	1,279,340	1,210,848	2.9	-5.4	

出典: 1) 各社ホームページ、2) JOGMECメキシコ事務所調べ、3) 国際鉛亜鉛研究会

3. ニッケル企業の動向

2005年第1四半期の生産実績を公表した主要4社のニッケル鉱山生産量は162.4千tで、前年同期比で約1.1千tの減産(前年同期比0.7%減)となっており、このうち2社が増産、2社が減産となった。

世界最大のニッケル生産者であるNorilskが前年3.3%減の59千tであった。2位のIncoも、インドネシアにおける発電ダム水位の低下による電力不足のため、ニッケル生産量が減少した。3位のWMC Resourcesでは、Mt Keith 鉱山、Leinster 鉱山の低品位化による生産量低下があったものの、Kambalda 鉱山の増産により、全体としては1.5%の増加であった。世界4位のFalconbridgeは、主力のSudbury 鉱山が前年同期比で約40%増産したことにより、全体で7.1%の大幅増となった。

主要ニッケル鉱山生産者の生産実績(単位:t)

会社名(本社所在地)	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年同期 比 (%)
Falconbridge(加)	19,160	18,828	21,201	21,055	20,524	7.1
WMC Resources(豪)	28,772	25,274	30,337	31,391	29,216	1.5
Inco Ltd.(加)	54,600	59,400	53,800	67,200	53,700	-1.6
Norilsk Nickel(ロシア)	61,000	-	-	-	59,000	-3.3
4社合計	163,532	-	-	-	162,440	-0.7

各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。

・今後の鉱山・製錬生産能力予測

国際銅研究会は、四半期ごとに改定している世界の銅鉱山・製錬一覧の2005年4月版を発表した。これは、2005年1月から4月までに発表された変化を反映したものである。

2008年までに計画されている世界の銅鉱山・製錬能力 (単位:銅金属量千t)

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	04年/08年の増加量	04年/08年の年増加率
SX-EW	3,020(2,991)	3,146(3,171)	3,571(3,460)	3,894(4,100)	4,161(4,278)	1,142(1,288)	8.4%
精鉱	12,794(12,688)	13,667(13,596)	13,785(13,768)	14,424(14,314)	14,828(14,635)	2,035(1,947)	3.8%
鉱山計	15,814(15,679)	16,813(16,767)	17,355(17,228)	18,318(18,414)	18,989(18,913)	3,175(3,234)	4.7%
溶錬	15,547(15,394)	16,238(16,085)	16,904(16,624)	17,119(16,819)	17,137(16,819)	1,590(1,425)	2.5%
電解精錬	15,665(15,510)	16,540(16,280)	17,141(16,936)	17,246(17,001)	17,286(17,041)	1,621(1,531)	2.5%
精錬計	19,452(19,283)	20,540(20,315)	21,493(21,169)	21,931(21,874)	22,238(22,092)	2,786(2,809)	3.4%

()は2005年1月発表の数字

最近の価格状況や需要増大に対する期待から、銅鉱山・溶錬・精錬能力の上方修正が継続。鉱山生産能力の上方修正は控えめで比較的小さかった。2008年における鉱山生産能力は約19百万tとなるのが計画されており、2004年と比べて約320万t(精鉱:2百万t、SX-EW:114万t)増加する見込みで、2004年から2008年までの4年間で鉱山生産能力は、年率4.7%(精鉱:3.8%、SX-EW:8.4%)増加することとなる。うち115万tは探鉱中又はFS実施中で最終的な開発決定はなされていない。

溶錬生産能力では、2005年1月時と比べて2005年に15.3万t増加、2008年に31.8万t増加と再び大きく上方修正された。2008年の溶錬生産能力は1,714万tに達する計画で、2004年から2008年までの4年間で溶錬生産能力は、2005年の69万t増加からその後増加幅は減少し2008年にはほぼ増加はなくなるものの、4年間合計では約160万t増加する見込みである。これは年率では2.5%増加することとなり、電解精錬の増加(約162万t)と同じであるが、精鉱の供給能力増加よりはかなり低くなっている。この結果、溶錬の稼働率は今後高くなる見込み。

2004年から2008年までの4年間で精錬生産能力は、約280万t増加することが見込まれる。このうち約70万tは未だ計画中(全てEW)で、建設決定はなされていない。電気精錬で162万t、EWで118万t、それぞれ電気精錬:年2.5%増、EW:年8.3%増となる見込み。これらの計画された能力拡張には、現存する鉱山・プラントの管理、メンテナンス、一時的生産削減等で変動する部分(Swing Capacity)は含まれていない。国際銅研究会の調査では、この変動部分は鉱山で僅か2.5万t、溶錬で40.0万t、精錬で54.0万tの能力が引き続き使用されていない状況にある。

前回の2005年1月版の一覧と比較して、鉱山、溶錬、精錬のすべての2008年の生産能力が増加、2004年から2008年までの4年間の生産能力引き上げ幅では、SX-EW増加分が下がった以外全ての生産能力の増加幅はさらに増大している。引き続き最近の価格状況や需要増大への期待から、生産者の間では、投資に積極的な姿勢が続いている。

・主要企業の 2005 年第 1 四半期動向レビュー

1. CODELCO

2005 年第 1 四半期は、銅およびモリブデン市況の高水準化により過去最高の収益

(1) トピックス

- ・ ENAMI 所有の Ventanas 製錬所を 393 百万 US ドルで買収。同製錬所買収資金調達のため、チリ国内で 200 百万 US ドル相当額の債券を発行。
- ・ 銅価格および副産物のモリブデン市況高水準化により、当期売上は前年同期比 21%増の 2,255 百万 US ドル、税引前利益は前年同期比 71%増の 1,084 百万 US ドルでいずれも過去最高を記録。特にモリブデンの売上は、556 百万 US ドルで売上全体の 25%。
- ・ CODELCO Norte ディビジョンのキャッシュコストは、モリブデンクレジット効果により前年同期の 38.5¢/lb から -48.2¢/lb に大幅に低減。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
売上高	1,869	2,047	2,087	2,211	2,255
営業利益	764	841	900	1,007	1,149
当期損益	209	313	293	319	389

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物生産状況

公表データなし

2) 主要保有鉱山生産状況

(単位:千t)

ディビジョン名	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
CODELCO Norte (100%)	194	238	246	305	186
Salvador (100%)	14	19	21	21	15
Andina (100%)	57	59	62	62	62
El Teniente (100%)	98	89	121	127	97
El Abra (49%)	27	28	26	26	26
キャッシュコスト (¢/lb)	41.7	36.6	32.6	31.7	-8.1

注1) 生産量は銅金属純分

注2) 第 2 四半期以降のキャッシュコストは累積平均値

(4) その他

第 1 四半期銅生産量は、前年同期比 1.4%減となったが通年では昨年と同水準の 180 万 t 台になる見込み。

2. Phelps Dodge

2005年第1四半期利益は386.7百万ドルと、前年同期比の2倍の大幅増。

(1) トピック

- 住友金属鉱山、住友商事との合弁事業 Cerro Verde プロジェクトでは、日本側両者の出資比率を21%から24.99%までとすることで合意した。Buenaventura社も9%から20%程度までに所有権を増やした。選鉱場は2006年の第4四半期から稼働する予定。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	1,597.0	1,650.9	1,846.5	1,994.9	2,066.5
営業利益	314.8	354.7	405.2	428.9	549.0
当期損益	185.7	226.6	292.9	341.1	386.7
探鉱費	13.6	15.5	15.8	18.2	18.8

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
銅鉱石(千t)	80.2	82.5	98.7	110.8	106.3
銅地金(千t)(SX-EW)	179.8	182.1	183.6	178.8	164.7
モリブデン鉱石(千ポンド)	13.5	14.8	15.1	14.1	14.7

権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t(short tons))

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Morenci(EW)	86.9	89.3	91.5	89.6	78.3
Bagdad(Conc)	17.8	38.2	41.5	21.7	25.5
Bagdad(EW)	6.9	7.2	8.8	6.5	2.4
Sierrita(Conc)	18.0	-	-	18.4	19.5
Sierrita(EW)	-	-	-	2.6	2.0
Miami/Bisbee(EW)	2.3	2.4	2.4	2.7	2.6
Chino/Cobre(Conc)	-	1.6	13.2	15.0	14.3
Chino/Cobre(EW)	15.2	16.9	15.8	14.0	14.4
Tohono(EW)	-	-	-	-	0.6
Tyrone(EW)	11.2	10.5	11.1	10.3	10.4
Candelaria (Conc)	44.4	42.7	44.0	55.7	47.0
Cerro Verde(EW)	25.2	24.5	24.5	23.4	23.9
El Abra(EW)	32.1	31.3	29.5	29.7	30.1

権益比率分のみ

3 . BHP Billiton

中国向け需要への対応により各鉱種とも好調な生産。特に銅については、Antamina 鉱山（ペルー）における生産回復（2004年6月に堆積物の除去完了）、Escondida 鉱山の生産増、Cerro Colorado 鉱山（チリ）での高品位銅採掘により、銅鉱山生産は4%増。

(1) トピック

- ・BHP Billiton 社は、92 億豪ドル、7.85 豪ドル/株による WMC 社買収提案中。買収期限は当初 5 月 3 日から 6 月 3 日に延期。豪州、EC 当局の許可は得たが、Rio Tinto 社など対抗者の噂は絶えない。
- ・中国との鉄鉱石売買契約締結（当初前年比 100% 増を狙うが、71.5% 増で締結）。

(2) 財務状況*1

単位：百万 US\$	2004 年 第 1 四半期	2004 年 上半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 下半期	2005 年 第 1 四半期
売上高		24,943		15,521	
営業利益		5,418		4,229	
当期損益		3,379		2,813	
探鉱費（金属のみ）	35	49	26	36	31

*1 四半期の公表がないため半期を記載。2004 年上半期 = 2004 年通年 - 2004 年下半期として算出

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
銅鉱石(千 t)	179.1	208.6	187.0	201.8	186.0
銅地金(千 t)	61.5	64.0	61.8	64.0	63.6
鉛鉱石(t)	70,838	64,472	64,910	71,509	80,899
亜鉛鉱石(t)	35,194	29,038	23,851	20,918	32,388
ニッケル地金(千 t)	21.2	19.9	19.6	19.7	20.8
モリブデン鉱石(t)	81	240	323	560	431
金(ounce)	33,364	31,145	30,132	31,247	32,152
銀(千 ounce)	12,064	11,053	11,769	12,353	14,044
マンガン鉱石(千 t)	1,264	1,337	1,379	1,361	1,297
マンガン合金 (千 t)	179	203	195	207	197
フェロクロム(千 t)	266	264	265	271	240
アルミナ(千 t)	1,062	1,059	1,000	1,036	1,092
アルミニウム(千 t)	333	333	339	338	332
鉄鉱石(千 t)	21,085	20,537	22,545	24,916	23,988
原料炭(千 t)	8,532	9,284	9,277	9,629	8,938
燃料炭(千 t)	21,279	21,494	23,245	21,389	20,079
石油等(百万 boe)	29.78	30.32	28.03	29.38	28.49

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Escondida 鉱山(銅千 t)	130.8	159.1	142.5	146.3	135.4
Tintaya 鉱山(銅千 t)	22.9	19.6	14.6	22.1	20.7
Antamina 鉱山(銅千 t)	24.6	29.9	29.9	33.4	29.9
Selbaie 鉱山(銅千 t)	0.8	-	-	-	-
Escondida(銅カソド千 t)	21.7	21.8	21.9	22.2	21.8
Cerro Colorado(銅カソド)	28.1	31.3	28.3	30.4	29.8
Tintaya(銅カソド千 t)	9.3	8.7	9.3	9.1	9.6
Pinto Valley(銅カソド千 t)	2.4	2.2	2.3	2.3	2.4
Cannington 鉱山(鉛 t)	70,838	64,472	64,910	71,509	80,899
Cannington 鉱山(亜鉛 t)	13,589	13,493	10,968	13,956	15,241
Antamina 鉱山(亜鉛 t)	19,099	15,545	12,883	6,962	17,147
Selbaie 鉱山(亜鉛 t)	2,506	-	-	-	-
Escondida 鉱山(金 ounce)	27,942	26,044	25,370	24,475	25,987
Tintaya 鉱山(金 ounce)	4,009	5,101	4,762	6,772	6,165
Selbaie 鉱山(金 ounce)	1,413	-	-	-	-
Cannington 鉱山(銀千 ounce)	10,485	9,471	10,339	11,025	12,383
Escondida 鉱山(銀千 ounce)	614	720	604	639	650
Antamina 鉱山(銀千 ounce)	588	662	692	503	830
Tintaya 鉱山(銀千 ounce)	239	200	134	186	181
Selbaie 鉱山(銀千 ounce)	138	-	-	-	-
CMSA(ニッケル 千 t)	12.5	12.0	11.9	12.4	13.3
Yabulu 鉱山(ニッケル 千 t)	8.7	7.9	7.7	7.3	7.5
Antamina 鉱山(Mo)	81	240	323	560	431
Highland Valley 鉱山(Mo)	-	-	-	-	-

(4) その他
特になし

4 . Grupo Mexico

2005 年第1四半期利益は、金属市況の高水準化(特にモリブデン)により 50%強増と大幅増が継続。また、子会社 SPCC 社と子会社 MM 社の合併による企業体質の強化方策も決着。

(1)トピック

- ・ 2005 年第1四半期の純益は、2.5 億ドル前年同期比 51.3%増と大幅増。負債も順調に減。
- ・ 銅生産量の減少は、カナネア鉱山の 10 年来豪雨(前年同期比 5.1%減)、SPCC 社の計画的な減少(同 14.6%減)。
- ・ 2005 年 3 月 28 日、臨時株主総会で子会社 MM 社と子会社 SPCC 社の合併が承認され、GM 社の鉱山部門は、GM AMC(権益 100%) SPCC(同 75.1%) MM(同 0.85%)。
- ・ ASARCO 社の Mission、Amarillo、Hayden 及び Silver Bell 各鉱山での Steel Worker 組合との労働ストライキは、まだ和解していない模様。
- ・ 2005 年第1四半期の SPCC 社の銅の操業コストは、モリブデン等の副産物クレジット効果により昨年同期比 1/8、約 5¢/lb を、同様に MM 社も銅の操業コスト 0.5¢/lb を記録。

(2)財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 第1四半期	2004 年 第2四半期	2004 年 第3四半期	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期
売上高	873.2	995.3	1,022.4	1,315.0	1,246.1
営業利益	403.2	445.8	444.7	658.1	614.2
当期損益	165.6	197.5	136.6	284.0	250.6
負債	2,952	2,081	1,852	1,543	1,333.6
探鉱費(投資)	77.4	87.4	113.2	172.6	135.6

(3)生産状況(主要鉱産物)

(単位:t、kg)

	2004 年 第1四半期	2004 年 第2四半期	2004 年 第3四半期	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期
銅(千 t)	220.9	213.4	217.3	221.9	202.5
銀(千 kg)	146.0	156.6	150.9	150.5	148.0
モリブデン(千 t)	3.20	3.21	3.51	4.45	4.02
亜鉛(千 t)	33.4	33.5	32.4	34.5	34.7

(4)その他

- ・GM 社の組織は、鉱業部門と鉄道部門を有し、鉱業部門は AMC(Americans Mining Corp.)社の傘下に、ペルーの SPCC 社(4 月 1 日メキシコ MM(Minera Mexico)社を傘下)及び米国の ASARCO 社の 2 鉱山会社を有す。
- ・GM 社の製錬所等プラントは、MM 社3、ASARCO 社4、SPCC 社2の計9ヶ所。

5 . Rio Tinto

2005年第1四半期利益は386.7百万ドルと、前年同期比の2倍と大幅増。

(1) トピック

- ・ 銅鉱石生産量は、前年同期比4.5%増の188.2千t。牽引役は、インドネシアGrasberg鉱山の生産再開に伴う前年同期比で銅3.6倍、金24.7倍の著しい増産。
- ・ チリEscondida鉱山では精鉱品位の低下及び2月のミル定修、南アPalaboraでは鉱山設備の一部で2週間の定修により、それぞれ生産量が減少。また、米国Kennecott Utah鉱山では精鉱品位の低下から生産量が低下し、第2四半期には製錬所で3週間の定修を予定。

(2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	1,597.0	1,650.9	1,846.5	1,994.9	2,066.5
営業利益	314.8	354.7	405.2	428.9	549.0
当期損益	185.7	226.6	292.9	341.1	386.7
探鉱費	13.6	15.5	15.8	18.2	18.8

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
銅鉱石(千t)	180.0	193.4	174.7	204.9	188.2
銅地金(千t)	87.4	81.5	82.5	81.1	77.8
モリブデン鉱石(千t)	1.6	0.9	1.5	2.8	3.9

権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t(short tons))

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Bingham Canyon	62.5	64.0	63.3	73.9	62.1
Escondida(Conc)	83.8	99.1	87.5	91.8	84.9
Grasberg(JV)	5.5	9.3	9.2	24.0	25.7
Northparks	5.8	4.7	6.0	7.4	8.6
Palabora(Conc)	5.2	4.9	8.7	7.9	6.9
Kennecott Utah Copper (Ref)	60.3	61.7	63.1	61.6	57.2
Escondida(Ref)	11.3	11.4	11.4	11.6	11.4
Palabora(Ref)	8.8	8.5	8.0	8.0	9.2

権益比率分のみ

6. Freeport-McMoRan

2005年第1四半期は、グラスベルグ鉱山の本格回復及び金属市況の高水準化により大幅な増収増益が継続。

(1) トピック

- ・ 2005年第1四半期の当期利益は1.3億ドルと前年同期比の19.5千ドルに比べ、大きく改善。
- ・ 銅鉱山生産は前年同期比の約3倍、金は約5倍に増加。
- ・ 2005年第1四半期は前期(2004年第4四半期)に比べ、銅品位は若干低下(1.17% 1.14%)、金品位は上昇(1.20g/t 1.62g/t)。
- ・ 2つの精錬所(Huelva、Gresik)も鉱石供給源であったグラスベルグ鉱山の再開やTC/RCの上昇等を受けて前年同期に比べ大きく増産。
- ・ グラスベルグ鉱山の深部鉱体の北西延長で鉱量拡大を目的としたマインサイト探鉱を実施中。2005年は15百万ドルを支出する見込み。

(2) 財務状況

(千USドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高 Revenues	360,185	486,334	600,556	924,791	803,065
営業利益 Operating income	41,376	46,702	148,636	466,862	357,599
純利益 Net income	19,551	53,311	17,133	212,505	130,395
探鉱費	2,227	2,787	1,963	1,687	1,920

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
銅鉱石(千t)	48.6	94.9	116.3	192.2	152.2
金(t)	3.6	10.3	9.6	17.8	17.3
銅地金(千t)	69.4	40.5	75.0	74.0	76.0

注)生産量は金属純分

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(千t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Grasberg 鉱山(85.6%)	48.6	94.9	116.3	192.2	152.2
Huelva 精錬所(100%)	58.4	30.6	59.5	57.7	59.7
Gresik 精錬所(25%)	11.0	9.85	15.5	16.3	16.3

注)生産量は権益分

(4) その他

- ・ Freeport McMoRan は、2005年の平均銅価格を1.4¢/lb 平均金価格を420\$/ozと予想。
- ・ インドネシアメディアの情報として、Freeport McMoRan はインドネシア政府に対し、グラスベルグ鉱山の権益9.36%を売却することに同意したと報道。売却価格はFreeport側は960百万ドルを求めているが、インドネシア側は700百万ドル以下を要求。

7. KGHM Polska Miedz S.A.

2005年第1四半期は、PLN(現地通貨)高、銅価高により、銅・銀の減産にも関わらず、大幅な増収増益

(1) トピック

- ・ 2005年第1四半期の純利益は、現地通貨(PLN:ズオティ)ベースで前年同期比27%増。ユーロベースで51.6%増の130,256百万ユーロ。

対米ドル為替レート(PLN)は、前年同期比19.6%高

LME 銅地金価格は、前年同期比19.4%高

LBM(London Bullion Market) 銀価格は、前年同期比4.2%高

- ・ Glogow Gleboki-Przemyslowy 銅鉱床の開発

KGHM は、2004年11月25日に Glogow Gleboki-Przemyslowy 銅鉱床開発プロジェクトのライセンスを取得している。フィージビリティ・スタディが行われ、鉱山開発に係る費用が算出され、投資が決定した。

- ・ コンゴ民主共和国における湿式製錬所の建設

KGHM は、コンゴ民主共和国の Kimpe における湿式製錬所建設プロジェクトへの投資を行っている。このプロジェクトにはカナダのエンジニアリング企業である Dynatec 社が参加している。完成は、2005年5月末の予定。

(2) 財務状況

(千 PLN)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	1,562,045	1,701,393	1,366,906	1,570,619	1,671,459
営業利益	477,797	481,804	242,140	214,845	497,009
純利益	411,804	496,825	247,721	172,288	523,016
探鉱費	-	-	-	-	-

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
銅地金(t)	132,000	136,443	142,163	139,460	130,776
銀(kg)	316,529	349,239	310,127	368,318	303,903

注)生産量は金属純分

(4) その他

- ・ KGHM 社がペルー・Rio Blanco 銅鉱床開発プロジェクトへの参入に積極姿勢

KGHM 社長は、ペルー・Rio Blanco 銅鉱床開発プロジェクトに参入すべく、5月にも同鉱床を保有する Monterrico Metals 社(英)にプロポーザルを提出したいと発言した。KGHM 社は同鉱床の価値を700~800百万ドルと評価しており、少なくとも35%の権益を取得すべくプロポーザルを検討中。

8. Noranda

金属の実勢価格の高騰と、銅、ニッケル、亜鉛、アルミニウムの売上高が増えたことにより、2005年第1四半期の総売上は昨年同期の20%を上回り19.76億ドルに。

(1) トピック

- ・ Falconbridge 社の完全買収を発表。所有する 59%に加え、残りの 41%を株式交換で買収する (Falconbridge 社株 1 株につき Noranda 社の 1.77 株で株式交換)。2 社合併により北米最大のベースメタル生産会社のひとつに。
- ・ Antamina、Collahuasi と Kid Creek 鉱山の著しい増産で、銅の生産量は昨年同期を 19% 上回る 11.9 万トンに。ニッケルは 7% 増え 2.1 万トンに。
- ・ Collahuasi 鉱山のモリブデン回収回路修復のためサイト準備の開始。
- ・ Nickel Rim South プロジェクトの通気孔埋め込み工事の開始。

(2) 財務状況

(単位:百万 USドル)

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
売上高	1653	1694	1716	1915	1976
営業利益*	361	280	377	365	455
当期損益	152	107	133	158	176
探鉱費**	7	12	14	14	12

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

**調査、開発、探鉱費を含む

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
銅鉱石 (銅金属純分)	100	122	136	133	119
銅地金	134	108	117	134	122
亜鉛鉱石	145	126	141	116	117
亜鉛地金	28	36	23	34	38

注) 主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t)

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
Collahuasi 銅鉱山(44%)	35	46	65	58	47
CCR 銅精錬所	78	68	63	79	67
Brunswick 鉱山(亜鉛)	74	62	65	68	67
Kid Creek 精錬所(亜鉛)	28	36	23	34	38

注) 生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

9 . Falconbridge Ltd.

今期動向のポイント: 順調な生産量の伸びと高騰が続く金属価格を受け、2005年第1四半期の収益は2.21億USドルで、昨年同期の1.84億ドルを大きく上回る20%増となった。

(1) トピック

- ・ Noranda 社との合併に合意
- ・ 2004年の同期に比べ、生産量はニッケル2%、銅24%、亜鉛21%増産。
- ・ Nikkelverk 鉱山でニッケル2.15万トン、コバルト1330トンの記録的な生産量を達成。
- ・ 銅の年間生産目標が、Collahuasi 鉱山のSAG製錬機第三号の操業停止により9千トン減少し、35.1万トンに変更。
- ・ タンザニアのKabanga ニッケル鉱床開発のジョイントベンチャー契約をBarrick Gold社と結ぶ。
- ・ 3月からNickel Rim South プロジェクトの通気孔埋め込み工事の開始。

(2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	734	704	756	876	903
営業利益*	461	474	459	562	554
当期損益	184	139	155	194	221
探鉱費	3	5	8	4	5

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
ニッケル鉱石	19	19	21	21	21
ニッケル地金	27	23	23	28	28
銅鉱石	66	85	98	92	83
銅地金	65	49	61	63	64

注) 主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Sudbury 鉱山(Ni)	6	6	7	6	4
Nikkelverk 精錬所(Ni)	19	16	16	20	21
Collahuasi 銅鉱山	35	46	65	58	47
Kid 銅精錬所	34	20	31	33	31

注) 生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

10 . Antofagasta Plc.

2005 年第 1 四半期は、モリブデンクレジット効果によりキャッシュコスト大幅に低減

(1) トピックス

- ・ グループのキャッシュコストは副産物のモリブデン価格の高騰により過去最低を記録した。Los Pelambres 鉱山では、109¢/lb のモリブデンクレジット効果によりキャッシュコストが -45¢/lb となった。
- ・ モリブデンクレジットは、TC/RC の高騰および鉱石品位低下による減収を吸収。
- ・ グループの銅生産量は 118,800t で 2004 年第 1 四半期に比べ 9%増、2004 年四半期平均よりも 4.7%減となった。これはグループ最大の鉱山である Los Pelambres 鉱山の生産計画で予め予想された鉱石品位の低下に起因する。品位の低下は、回収率の向上および処理量の増加によりある程度補填できた模様。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004 年 上期	2004 年 下期	2005 年 合計
売上高	819.8	1,088.9	1,908.7
営業利益	445.9	729.3	1,175.2
当期損益	222.3	336.0	558.3

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
銅鉱石	109.0	126.4	130.7	132.2	118.8
モリブデン鉱石	1.8	1.9	2.1	2.1	2.2
キャッシュコスト (¢/lb)	41.9	21.9	24.9	11.6	-8.0

注)生産量は銅金属純分

2) 主要保有鉱山生産状況

(単位:千t)

鉱山名	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
Los Pelambres (60%)	72.4	92.6	93.5	92.1	80.6
El Tesoro (61%)	24.0	22.9	24.6	26.3	26.3
Michilla (74.2%)	12.6	10.9	12.6	13.8	11.9

注1)生産量は銅金属純分

注2) Los Pelambres 鉱山は硫化精鉱のみ、El Tesoro 鉱山及び Michilla 鉱山はカソードのみを生産

注3) モリブデン生産は Los Pelambres 鉱山のみ

(4) その他

El Tesoro 鉱山では、鉱石品位の低下に対処するため、鉱石処理能力アップを目的とした US\$20mn 規模の設備投資を計画。工事が完了すれば、カソード生産能力も 2001-2004 年の 79,356t/y レベルから 87,810t/y に増大することになる。

11. WMC Resources Ltd

- ・銅: 精練工程は稼働率が 90%まで上昇、鉱山は 900 万 t/年のペースで採掘、充填工程は 30%能率向上、選鉱工程は稼働率 87%、1,000t/年ペース、銅回収率は 96%に上昇と各工程の操業状況が好調。
- ・ニッケル: Kambalda 選鉱所は第三者からの供給増で生産増、Kalgoorlie 製錬所は精鉱の供給の伸びからマットの生産増(11 万 t/年ペース)、Mt Keith 鉱山と Leinster 鉱山の低品位鉱のためニッケル精鉱の生産量は低下、Kwinana 精練所はオートクレーブのメンテナンスとガス供給の障害によりニッケル生産減等の要因はあったが、全体として生産増加。

(1) トピック

- ・ BHP Billiton 社は、\$7.85/株で WMC 社買収を提案中。WMC 社経営陣は BHP Billiton 社の買収提案に応じることを推奨。BHP Billiton 社による WMC 社買収期日は 6 月 3 日に延長。
- ・ Mt. Windarra ニッケル・プロジェクト(西豪州)を、Niagara Mining Ltd 社との間で 7 百万豪ドルと硫化鉱 10,000 t Ni 相当に対する 1 百万豪ドルによって売却することで合意。

(2) 財務状況^{*1}

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
売上高 (百万豪ドル)		1,851		1,943	
営業利益(税引後)		515		812	
当期損益					
探鉱費		10.5		16.8	

*1 四半期の公表がないため半期を記載。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
銅地金(千 t)	47,794	54,785	61,584	60,388	56,915
ウラン(U ₃ O ₈ t)	1,205	1,020	979	1,200	1,080
金(ounce)	12,110	22,266	24,597	29,660	23,678
銀(ounce)	127,190	232,194	228,294	273,950	230,092
ニッケル鉱石(t)	28,772	25,274	30,337	31,391	29,216
ニッケル・マット(t)	27,074	18,774	25,120	26,812	27,002
ニッケル地金(t)	11,655	16,893	16,114	17,817	15,798

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Olympic Dam 鉱山(銅千 t)	47,794	54,785	61,584	60,388	56,915
Olympic Dam 鉱山(U ₃ O ₈ t)	1,205	1,020	979	1,200	1,080
Olympic Dam 鉱山(金 ounce)	12,110	22,266	24,597	29,660	23,678
Olympic Dam 鉱山(銀 ounce)	127,190	232,194	228,294	273,950	230,092
Kambalda 鉱山(ニッケル t)	5,938	7,058	7,296	7,829	8,907
Leinster 地区(ニッケル t)	11,308	8,639	12,688	11,942	10,449
Mt Keith 地区(ニッケル t)	11,526	9,577	10,353	11,620	9,860

(4) その他

- ・ 特になし

12. Placer Dome

営業利益の減少と閉鎖と解雇義務に関わる新しい会計方針の導入の影響で、2005年第1四半期の利益は昨年同期50%下回り3,100万ドルとなった。

(1) トピック

- ・ Porgera 露天掘り鉱山西側の第五ステージの斜面侵食と地崩れの影響で生産量の減少が見込まれ、2005年の金の推定生産量は以前の発表より5万オンス減少し360万～370万オンスと発表。銅の推定生産量は変わらず、4.1億～4.2億オンス。
- ・ Placer Dome 社が60%所有する Cortez Hills 露天掘り鉱山(ネバダ)、100%所有の Pueblo Viejo プロジェクト(ドミニカ)、51%所有の Cerro Casale プロジェクト(チリ)、70%所有の Donlin Creek(アラスカ)で、それぞれフィジビリティ調査が現在行われている。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	508	467	453	460	491
営業利益*	158	137	109	78	104
当期損益	64	33	148	39	31
探鉱費	16	17	19	25	18

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
金(万オンス)	92.9	90.8	88.8	92.7	91.1
銅(t)	49,441	49,442	45,813	42,184	41,277

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Porgera(Au)(万オンス)	19.3	18.7	18.1	20.4	18.6
Cortez(Au)(万オンス)	17.0	17.3	15.8	13.0	13.2
Zaldvar(Cu)(t)	39,009	39,009	35,380	34,019	33,566

注)生産量の最も多い鉱山の主要鉱産物を記載

13 . Inco Ltd.

期中ニッケルの LME 平均価格は過去 16 年で最高値により、当社の 2005 年第 1 四半期利益は、2004 年比で 20%強の増。

(1) トピック

- ・ ニッケル生産量は昨年同期比で減少。これはインドネシアにおいて発電ダムの水位が低下し、ニッケルマットの生産に必要な電力が不足したため。最近の降雨にてダムの水位は回復。
- ・ 2005 年 4 月にニューカレドニア・Goro プロジェクトにつき、住友金属鉱山および三井物産が 21%の権益を獲得(インコ 69%、地方政府 10%)。鉱山建設は 2005 年 5 月の段階で全体の 35%が完工。インフラを含めた全体の建設費は当初予定額の 18.78 億ドルの -5%から+15%の範囲。
- ・ Voisey's Bay は当初スケジュールによる出鉱まで残り半年を切った。現在、剥土とミル建設からなる Phase I の工事に従事しており、その 82%が完工。2005 年 7 月には最初の粗鉱を出鉱、8 月には精鉱を生産できる見通し。また 2006 年初期にはニッケル地金も生産開始され、本格的な操業へ。2006 年のニッケル生産見通しは、地金換算で 24 万トン。
- ・ 2005 年 3 月に中国 Shenyang Golden Champower New Metals Corp.が有するニッケル・フォーム生産事業の 77%の権益を獲得。これによりニッケル・フォーム生産物のインコ社シェアは 2004 第 3 四半期から世界第一位となる見通し。ニッケル・フォームは主にアジアのバッテリー生産者へ提供。
- ・ 今期のニッケル生産量は 55.5 千トン(1.22 億ポンド)で、昨年同期の 57.6 千トンを下回るものの、2 月に発表された今期生産推定量を 200 万ポンド上回る結果となった。
- ・ 強いニッケル価格を受け、今期の収益が上がったことから、1999 年初旬来停止していた配当金配布を今期より一株につき 10US¢で再開。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
売上高	1,099	1,002	1,048	1,177	1,122
営業利益*	485	360	421	464	458
当期損益	254	-14	148	223	313
探鉱費	6	6	7	13	9

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
ニッケル (千 t)	59.6	59.5	53.3	66.1	55.5
銅 (千 t、出荷量)	29.7	30.4	35.1	29.7	32.6
コバルト (t、出荷量)	392	358	278	514	456
PGM(千 oz、出荷量)	147	75	117	81	108

注) 鉱種別インコ社生産量を示す。

14 . Newmont

2005年第1四半期は、Batu Hijau 鉱山の減産等により、減収減益となる。

(1) トピック

- ・ 2005年第1四半期の当期損益は84百万ドルと前年同期比3.4%減益。
- ・ 金生産は1.551百万ozに減少、前年同期比14.4%減産。
- ・ 銅鉱山生産は前年同期比7,120t減少し18.9%減産。
- ・ Batu Hijau 鉱山の露天採掘場のベンチ壁の崩落などにより、生産障害が一時的に生じた。
- ・ Nevadaでは、磨鉱トラブルなどで前年同期比10%減産した。
- ・ Yanacocha 鉱山では、リーチング槽の整備などで前年同期比3%減産した。

(2) 財務状況

(千USドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	1,122,000	1,009,171	1,162,691	1,230,042	961,000
営業利益	353,000	129,559	310,764	360,678	188,000
純利益	87,000	37,496	128,727	181,623	84,000
探鉱費	37,000	48,226	54,093	53,416	45,000

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
金(千oz)	1,812	1,643.4	1,734.7	1,797.9	1,551
銅鉱石(t)	37,605	57,470	55,308	47,291	30,485
亜鉛鉱石(t)	18,277	8,936	3,436	5,996	13,624

注)生産量は金属純分

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(千oz、t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Nevada (100%)	617.4	633.7	570.4	668.2	557.5
Yanacocha (51.35%)	410.3	317.7	397.0	436.0	396.9
Batu Hijau (45%)	35,993	48,444	52,105	40,992	24,733

注)生産量は権益分

(4) その他

- ・ 第1四半期の探鉱予算は45百万USドルで前年同期比22%増となった。内訳は、グラスルート探鉱に27百万USドル(前年同期比29%増)、事業化調査及び開発に18百万USドル(前年同期比13%増)充てられた。

15 . Teck Cominco Ltd.

2005年第1四半期利益は、主に銅、モリブデン、石炭の高値を反映して2004年比で倍増。

(1)トピック

- ・ アラスカ・ポゴ金山は2006年第1四半期中の出鉱を目標に建設進行中。
- ・ BC州と米国の国境に近いTrail精錬所の汚染問題で、Teck Cominco社がRoosevelt湖およびColumbia川上流の環境影響調査のための13百万USドル資金提供申し入れに対しEPAが交渉を打ち切ったそのすぐ後に、スーパーファンド法に基づく改善措置および実行可能性の調査を同社に命じた問題について、カナダ、米国両政府が環境影響調査に向けた双務的な合意が探られているところ。
- ・ 石炭増産に向けての開発投資。Cardinal River 鉱山(年産2.8百万トン)の新規開発およびFording River 鉱山の拡張(年産1.0百万トン増)を2005年第3四半期に完了予定。
- ・ 新日鉄と韓国・浦項製鉄はElk View石炭鉱山への共同出資についての最終合意に向け協議継続中。両社は同鉱山に50百万USドルを共同出資、5%の権益を獲得し(各2.5%)、向こう10年間鉱石を引き取る。出資に伴いElk View 鉱山の年間生産を6百万トンから7百万トンへと拡張。

(2)財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
売上高	675	835	978	1051	928
営業利益*	179	229	338	392	329
当期損益	96	116	120	285	205
探鉱費	6	10	12	14	5

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
銅鉱石(千t)	50	63	66	71	61
亜鉛鉱石(千t)	146	153	171	149	161
亜鉛地金(千t)	98	104	110	102	71
鉛地金(千t)	16	22	21	25	21
モリブデン(千ポンド)	2,187	N/A	N/A	3,234	2,599
石炭(千t)	2,107	2,528	2,175	2,464	2,527

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
Red Dog 鉱山(Zn)(千t)	130	139	153	132	136
Highland Valley (Cu)(千t)	30	41	43	46	38
Highland Valley (Mo)(千ポンド)	2,067	N/A	N/A	2,404	1,965 30
Elk Valley Coal Partnership (Coal) (千t)	2,107	2,528	2,175	2,464	2,527

注)生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

・その他企業の動向、主要国の生産統計

1. 豪州企業の 2005 年第 1 四半期動向レビュー

最近の豪州鉱業は、非鉄金属価格の上昇と中国向け輸出などによって生産状況は好調である。先日、経済誌が発表した 2004 年 12 月期の主要業種別純利益ランキングで、金属・鉱業 (Metal and Mining) は、約 80 億豪ドルで、2 位の銀行に約 20 億豪ドルの大差をつけてトップとなった。対前年比で 99% 増の大幅な増加であった。

(1) Newcrest Mining Ltd. 社 (本社:メルボルン)

生産: 2005 年に生産開始の Telfer 鉱山の効果で生産増。現金コストは 126 豪ドル/oz

探査等: Kencana 鉱山の埋蔵量 86 万 oz、Ridgeway Deep 開発開始、Cracow Sovereign 構造試験

	2005 Q1	2004 Q1	主な要因
金(ounces)	319,511	165,470	2005 年に生産開始の Telfer 鉱山の効果で生産増。金 68,891oz、銅 8,931t 生産
銅鉱石(千 t)	26,354	20,420	

(2) Lihir Gold Ltd. 社 (本社:ポートモレスビー)

生産: 一時的な低品位帯の採掘と施設メンテナンスのための操業停止が影響し減産したが、年間計画の 700,000ounce は確保出来る見込み

探査等: 30MW の地熱発電設備が 5 月中に稼働予定、低品位鉱の生物処理試験を 05 年内実施予定

	2005 Q1	2004 Q1	主な要因
金(ounces)	101,370	112,336	一時的な低品位帯の採掘と施設メンテナンスのための操業停止が影響

(3) Minera Resources 社 (本社:パース)

生産: 施設メンテナンス上のトラブルはあったが、生産は堅調。

探査等: 4 月 16 日から 3 週間操業を停止してプラントの改修工事を予定

	2005 Q1	2004 Q1	主な要因
ニッケル(t)	8,163	6,839	酸処理プラントの加熱器の腐食、水素プラントのバルブ及び制御系トラブルが影響
コバルト(t)	579	503	

(4) Oxiana Ltd. 社 (本社:メルボルン)

生産: Sepon プラント(ラオス)が完成。銅カソード初出荷、金プラント拡張完了、計画上回る処理量

探査等: Sepon 鉱床にて資源量獲得のボーリング継続、Thengkham(銅)、Prominent Hill(金)探査継続。

Minotaur Exploration 社設立。

	2005 Q1	2004 Q1	主な要因
金(ounces)	56,434	41,888	Sepon 金プラント拡張完了、計画を上回る鉱石処理

(5) Iluka Resources 社 (本社:パース)

生産: ジルコンを除いて前年同期を上回る堅調な生産状況。

探査等: Farasands JV(マダガスカル)から撤退、Ecula Basin 地区は夏季の間は活動停止

	2005 Q1	2004 Q1	主な要因
ルチル(t)	40,703	33,763	採掘量の増加等
イルメナイト(t)	409,458	328,842	Capel 地区での高品位鉱採掘が好影響
ジルコン(t)	98,918	105,643	Enebba 地区での低品位鉱採掘が悪影響

(6) Zinifex 社(鉛・亜鉛)

生産: Rosebery 鉱山の高品位鉛採掘にも関わらず、3月に Century 鉱山で発生した SAG 粉砕機故障 11.5 日間の操業停止が影響して計画を 6% 下回る生産となる。

探査等: Century 鉱山周辺で 3ヶ所、ボーリング 7 孔 1,438m、Rosebery 鉱山で坑内探鉛を実施

	2005 Q1	2004 Q 1	主な要因
亜鉛鉛石(t)	134,422		Century 鉱山での SAG 粉砕機故障による生産障害で 14 百万豪ドルの損失
亜鉛地金(t)	156,047		
鉛鉛石(t)	15,760		
鉛地金(t)	64,857		

2. メキシコ・Penoles 社の 2005 年第 1 四半期動向レビュー

2005 年第 1 四半期利益は、金属市況の高水準化により 49 百万 US ドルと前年同期比 50% 強増と大幅増。また、鉱区の売買の動きが活発化。

(1) トピック

- ・ 2005 年第 1 四半期の純利益は、49 百万 US ドルと前年同期比 53.6% 増と大幅増。
- ・ 2005 年 3 月、ゲレロ州 Oro de Mezcala 金探査案件(P 社権益 56%)を加 Goldcorp 社へ 70 百万 US ドルで売却、チワワ州 Pinos Altos 金探査案件を加 Agnicio Eagle Mine 社へ 65 百万 US ドルで探鉛権の譲渡契約合意。一方、世界かつ同社最大のサカテカス州フレスニージョ鉱山の隣接鉱区を加 MAG Silver 社と共同探鉛契約合意。
- ・ 主要鉱山の Fresnillo(銀)、Cienega(金)及び Sabinas(亜鉛)各鉱山は、第 2 四半期から増産体制を強化する計画。チサパ鉱山でも増産に向けた検討が進行中。
- ・ 探鉛は、04 05 年 32 45 百万 US ドル、内ペルー 3 5 百万 US ドルを計画。ミチョアカ州 Ajiadero、ソラ州 San Juan、ゲレロ州 El Real、サカテカス州 El Suacito 及びペルー Capac-Orco で実施中。

(2) 財務状況

(単位: 百万 US ドル)

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期
売上高	382.0	370.4	352.2	380.8	439.6
営業利益	76.1	55.4	61.3	75.0	85.2
当期損益	31.4	7.1	19.2	34.7	49.1

(注) HP より、2004 年は平均値 11.2879 ¢/＄、05 年第 1 四半期は 11.1821 ¢/＄で換算。

(3)生産状況(主要鉱産物)

	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期
金(千kg)	6.3	5.8	4.9	5.0	7.0
銀(千kg)	601.1	556.2	561.5	552.4	626.7
国内(千kg)	86.1	90.4	73.7	100.1	124.7
輸出(千kg)	515.0	465.8	487.8	452.3	502.0
鉛(千t)	35.9	35.7	31.2	31.6	34.4
国内(千t)	32.2	35.3	30.8	31.0	34.0
輸出(千t)	3.7	0.5	0.4	0.6	0.4
亜鉛(千t)	56.4	51.7	57.6	54.1	58.7
国内(千t)	20.2	20.6	20.2	17.7	19.1
輸出(千t)	36.2	31.1	37.4	46.4	39.6
ビスマス(t)	232	257	271	250	239
国内(t)	18	18	14	10	19
輸出(t)	214	239	257	240	220

(4)その他

- ・ 同社の銅生産は、現在は年産 0.5 万tと微量なるも、2006 年1月からソノラ州ミルピージャス鉱山で銅(SX-EW)を生産開始予定で、本格稼働では年産 6 万tを計画。
- ・ 製錬所等プラントは、コアウイラ州 Torreon の1ヶ所。

3. 主要国の生産統計

チリの銅生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年 同期比
銅生産量(t)	1,204,183	1,329,881	1,388,078	1,468,533	1,242,936	3.2%
電解銅	575,013	573,372	613,996	645,007	538,787	-6.3%
精鉱(銅含有量)	622,448	753,665	697,953	752,054	657,771	5.7%
その他	6,251	19,100	76,129	71,472	41,437	

出典:チリ統計局

ペルーの生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年 同期比
銅	245,000	173,000	344,000	274,000	243,000	-0.6%
金	47.3	34.1	47.5	44.3	44.5	-7.0%
亜鉛	311,000	361,000	254,000	283,000	310,000	-0.4%
鉛	74,000	83,000	71,000	78,000	77,000	3.6%
銀	704	762	827	787	784	5.4%
錫	9,800	9,900	11,300	10,600	10,200	3.4%
モリブデン					4,300	74.1%

出典:エネルギー鉱山省

中国の生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 第1四半期	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年 同期比
銅精鉱	138,335	154,092	157,484	157,623	156,749	13.3%
銅地金	464,777	516,737	516,662	536,945	546,103	17.5%
亜鉛精鉱	308,964	296,977	593,790	491,471	338,430	9.5%
亜鉛地金	594,564	413,699	834,646	692,053	613,638	2.9%

出典:安泰科

平成 17 年度情報収集事業報告書 第 1 号

クォーターリー・レビュー

非鉄メジャーの 2005 年第 1 四半期動向

平成 17 年 6 月 発行

発行：独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

金属資源開発調査企画グループ

〒212 - 8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 番

電話：044-520-8590 FAX:044-520-8750 E-mail:mric@jogmec.go.jp

http://www.jogmec.go.jp/mric_web/

印刷：株式会社 サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-18

電話：03-3265-1816 (代)
